

※対象品番は裏表紙の仕様欄を参照ください



お願い

ご使用の前に検知範囲、お出迎え時間などの調整が必要です。説明書を必ずお読みください。

お客様へ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
ご使用前に「安全上のご注意」(表紙)を必ずお読みください。
この取扱説明書は大切に保管してください。
施工には電気工事士の資格が必要です。必ず、販売店、工事店に依頼してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や
損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を、次の図記号で
説明しています。(下記は図記号の一例です。)



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある
内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が
発生するおそれがある内容」です。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告

- 異常を感じた場合、速やかに電源を切る
異常状態が収まったことを確認し、販売店
または別紙お客様ご相談窓口にご相談ください。



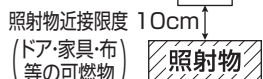
分解禁止

- 器具を改造したり、部品交換をしない
火災、感電、落下によるけがのおそれが
あります。

必ず守る

- 照射物近接限度内にドア開閉範囲や家具
などの可燃物が近づかない
ように注意する

守らないと、照射物
の変色、火災の
おそれがあります。



注意

- 照明器具には寿命があります。
設置して10年経つと、外観に異常が
なくても内部の劣化は進行しています。
点検・交換してください。

点検せずに長期間使い続けるとまれに
火災、感電、落下などに至る場合があります。

- ◎1年に1回は「安全チェックシート」に基づき
自主点検してください。

必ず守る

必ず守る

- お手入れの際は、電源を切る
通電状態で行うと感電の原因となる
ことがあります。

- 本体の取り外しは販売店、工事店に
依頼する

本体の取り外しには資格が必要です。

ご使用方法について

お知りになりたい内容に応じてご参照ください

- ご使用方法により選べる点灯動作
【お出迎えモード】 【ON/OFFモード】
【連続点灯】については

☞『センサによる点灯動作について』(6~7ページ)

- センサによる点灯動作を変更する場合は

☞『センサの設定方法について』(5~6ページ)

- センサの検知範囲の確認、エリアカットをする場合は

☞『センサの検知範囲とエリアカット』(裏表紙)

- 点灯動作に異常を感じた場合は

☞『故障かな?と思ったら』(7ページ)

- ご使用上に関するお知らせ、器具のお手入れ、
仕様(品番、定格など)は

☞ 裏表紙

- ペア点灯などの設置状態、センサの動作設定については施工した販売店・工事店にご確認ください。

- 施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。
- 施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- お客さまと打ち合わせのうえ、器具の取付位置、センサによる点灯動作の設定を行ってください。

施工説明（2～5ページ）

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

■取付面

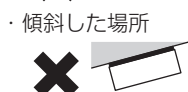
●次のような場所には取り付けない

火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

- ・補強のない場所（ベニヤ板や石こうボードなど）
- ・取付面が取付板パッキンより小さい場所



禁止



・傾斜した場所

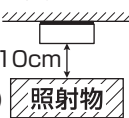
・浴室などの湿気の多い場所



◎この器具は水平天井面取付専用防雨型です。（防湿型ではありません。）

●照射物近接限度内にドア開閉範囲や家具などの可燃物が近づかないように考慮して取り付け

守らないと、照射物の変色、火災のおそれがあります。（ドア・家具・布等の可燃物）



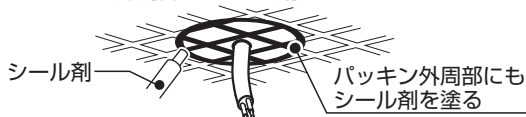
必ず守る



必ず守る

■取付面

●取付面と取付板パッキンのスキマおよびパッキン外周部にシール剤を塗る



取付面と取付板パッキンとのスキマを防水シール剤などで埋めてください。防水が不完全な場合、火災・感電のおそれがあります。

■その他

●器具の取り付けは、説明書に従い確実にを行う

取り付けに不備があると火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

●交流100ボルトで使用する

過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれがあります。

●電源線・送り線は端子台の差し込み穴の奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。

●本体が電源線・アース線・送り線をかみこんでいないことを確認する

不備があると火災、感電のおそれがあります。

●接地工事は、電気設備の技術基準に従って確実にを行う

接地不完全な場合、感電のおそれがあります。



アース線接続

■壁スイッチ

●調光機能が付いた壁スイッチの場合は、一般の入切用スイッチに交換する

火災のおそれがあります。

◎調光器の取り外しが必要です。



必ず守る

注意



禁止

●温度の高くなるものの上に取り付けない

火災の原因となることがあります。

◎ガス機器や排気筒の上に取り付けしないでください。



必ず守る

●器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用する

けがのおそれがあります。

●配線図通りに接続する

器具破損のおそれがあります。

施工前のご確認事項

【取付場所についてのご注意】

●次のような場所には取り付けないでください。

この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。

× 昼間でも暗い所や夜間でも明るい場所	× 反射の強い床面のある場所	× 風などでよく揺れる植物の近くなど	× 取り付け高さが3mを超える場所	× 換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの近く
× 交通量の多い道路に面した場所	× 車など人より大きな熱源の場合、取扱説明書記載の検知範囲より広くなります	× 前面に障害物のある場所（透明なガラスも含む）	× 他の照明器具や壁に近い場所	

●一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

【壁スイッチについて】

●必ず壁スイッチを設けてご使用ください。(スイッチは別途ご用意ください)

・連続点灯への切り替え操作ができません。・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。

●ほたるスイッチと接続する場合は1回路につきスイッチ3個まででご使用ください。

(4個以上のほたるスイッチと接続すると、スイッチを切にしても器具が消灯しないことがあります。)

●パイロットスイッチを使用の場合、壁スイッチがON状態でも器具がセンサ待機(消灯)状態のとき、スイッチの表示が点灯しないことがあります。

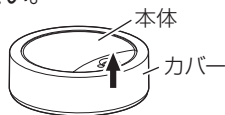
各部のなまえと取り付けかた

安全のため、電源を切ってから行ってください

●器具の取り付けは、手袋など保護具を使用してください。

取り付け前のご準備

- ①カバーを本体から取り外す
- ②袋ナット(2個)を外し、本体から取付板を外す
- ③ネジ(器具内用アース線接続用)を緩め、器具内用アース線を取り外す

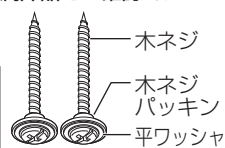


付属部品

施工する前にまず付属部品をご確認ください

□ 木ネジセット (2個)

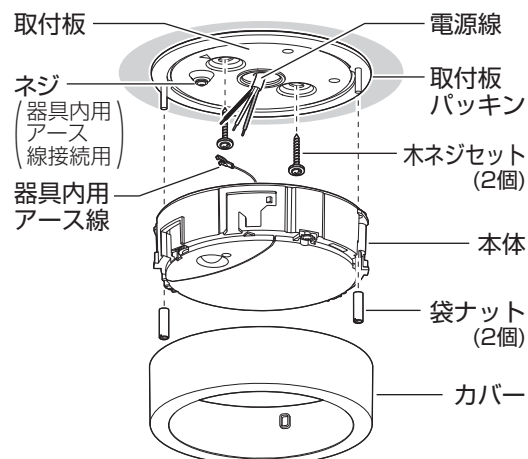
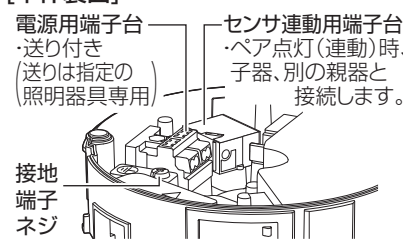
(ご使用前に木ネジの根元まで、平ワッシャ・木ネジパッキンを押し下げてください。)



□ エリアカットフード

付属部品は本体内に収納しています。

【本体裏面】

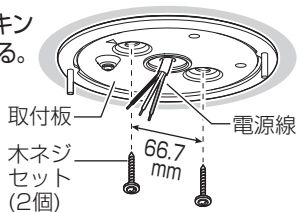


1 付属の木ネジセット(2個)で取付板を取り付ける

・木ネジに平ワッシャ・木ネジパッキンが取り付けられていることを確認する。

・本体の中央穴に電源線を通し、木ネジセットを確実に締め付ける。

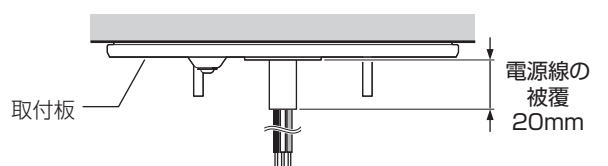
・取付ピッチ: 66.7mm



2 電源線を加工する (送り配線する場合、送り線も同様の加工をしてください。)

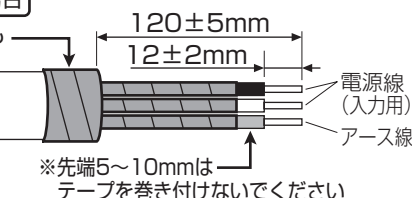
・適合電線 VVFφ1.6単線推奨

・VVF外被から絶縁テープを巻き付ける。



単独で使用する場合

VVFの付け根も絶縁テープを巻きつける



別のセンサ器具、複数台のセンサなし器具を連動させる場合

電源入力用以外の電線を準備する。

☞『ペア点灯について』(4~5ページ)を参照

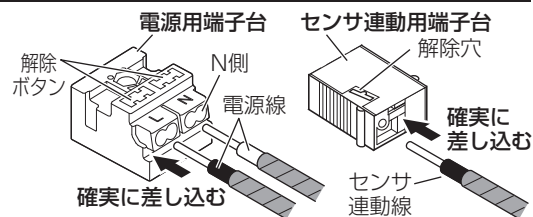
※電線のむき代、テープ巻きは同様にしてください。

(注意)

- ・VVFφ2.0は電線が硬いため、器具が浮き上がり、正しく設置できない場合があります。
- ・ボックス取り付けの場合、電源線を引き出して指定の長さで加工を行い、結線後にボックス内に電源線を押し込んでください。

3 端子台に電源線・センサ連動線・送り線を接続する

・接地端子ネジからD種(第3種)接地工事を行う。



器具の取り替え等で電源線を外す場合

<電源用端子台>

マイナスドライバー等で解除ボタンを押しながら電源線を引き抜く。

<センサ連動用端子台>

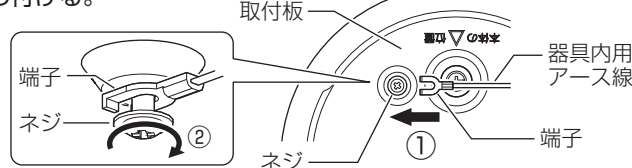
マイナスドライバー等を解除穴に差し込みながら電源線を引き抜く。

4 器具内用アース線を取付板に接続する

①取付板のネジをゆるめて器具内用アース線の端子をはめ込む。

・アース線のかみ込みを防ぐため、下図の矢印方向から端子をはめ込んでください。

②ネジを締め付ける。

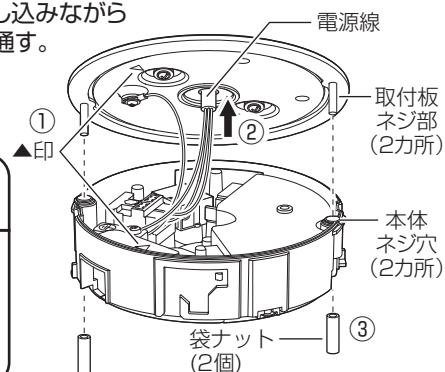


5 本体を取り付ける

①▲を合わせて取付板のネジ部に本体のネジ穴を合わせる。

②天井内に電源線・送り線を押し込みながら取付板ネジ部を本体ネジ穴に通す。

③袋ナット(2個)をマイナスドライバー等で確実に締め付け、本体を固定する。



警告



本体が電源線・アース線・送り線をかみこんでいないことを確認する
不備があると火災、感電のおそれがあります。

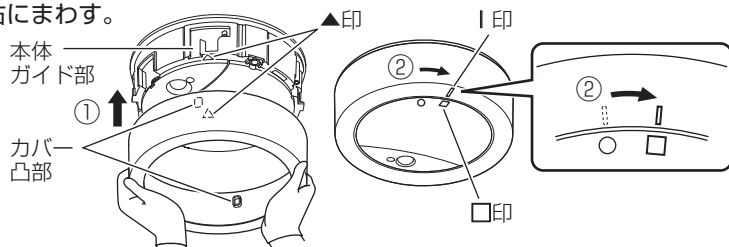
(次ページにつづく)

6 検知範囲を確認する

- ・センサのダイヤル設定を『テスト』にして検知範囲を確認する。
 ☞『センサの設定方法について』(5～6ページ)、『センサの検知範囲とエリアカット』(裏表紙) 参照
- ・確認後、お客様が希望されるセンサ動作モードに設定ください。
 ☞『センサによる点灯動作について』(6ページ) 参照

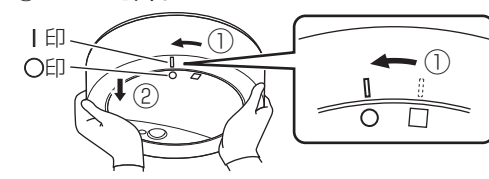
7 カバーを取り付ける

- ①▲を合わせてカバー凸部を本体のガイド部へ押し上げる。
 (カバーの▲印と凸部は内側にあります。)
- ②両手でカバーを支え、本体の□印にカバーのI印が合うまでカバーを右にまわす。



カバーの取り外しかた

- ①両手でカバーを支え、本体の○印にカバーのI印が合うまでカバーを左にまわす
 ・カバーを少し持ち上げるようにすると回転しやすくなります。
- ②カバーを外す



ペア点灯について

別の照明器具と接続し、複数の器具と連動させて点灯させることができます

注意

2022年6月発売以前の旧センサ付器具との連動不可

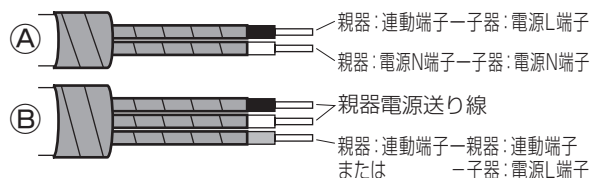
旧センサ付器具とは連動しません。そのまま接続すると器具が破損します。

ペア点灯する対象負荷について

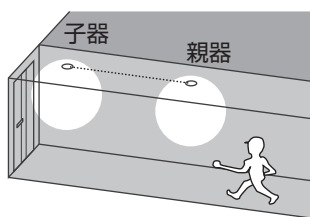
- 親器 (センサ付器具) : 指定のセンサ付器具最大1台まで接続可能です。
 指定のセンサ付器具は ☞『仕様』(裏表紙)に記載の器具です。
- 子器 (センサなし器具) : 品番、台数は商品仕様図をご参照ください。
 ※調光不可タイプ(起動方式LE1・CE1、LED電球)の子器と連動させる場合は、ON/OFFモードでご使用ください。お出迎えモードで使用すると、動作不良、騒音の発生、子器の短寿命の原因となります。

配線についてのご注意

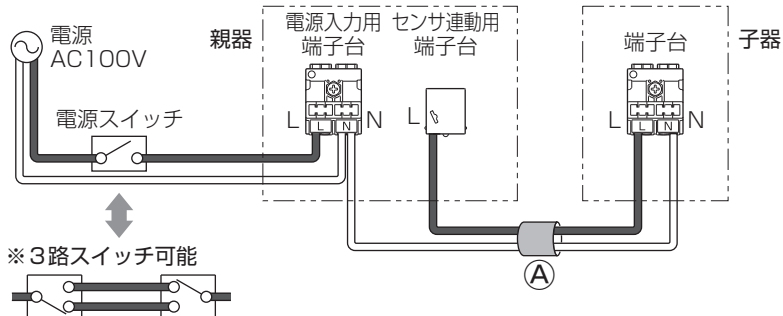
- 連動させたい組み合わせに対応した配線図に従って正しく接続ください。
- 壁スイッチ(3路スイッチを含む)は1台目の親器の入力側に設置ください。



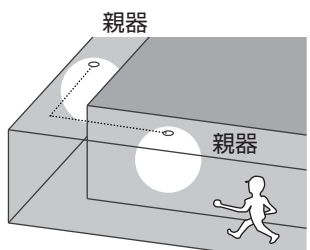
親器—子器



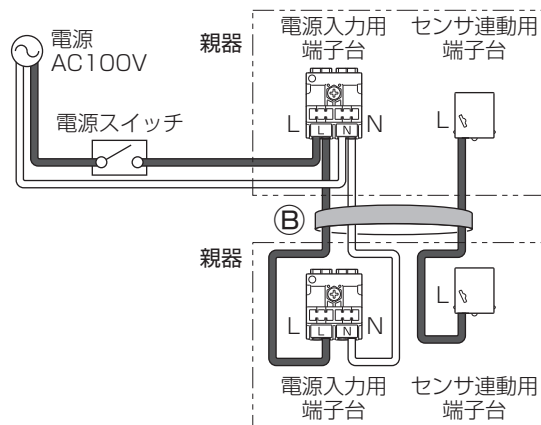
人を検知して親器が点灯すると子器が連動して点灯します。



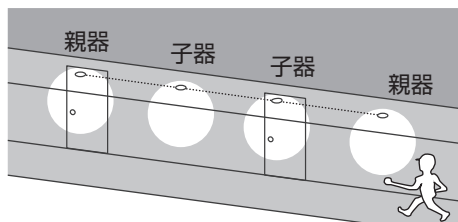
親器—親器



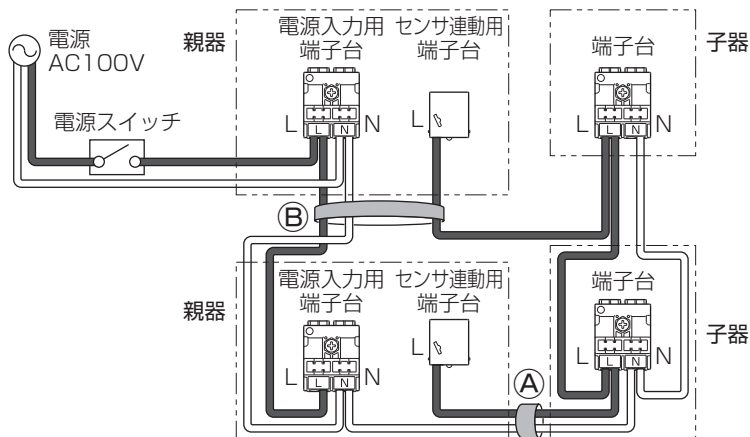
どちらかの親器が人を検知して点灯するともう一方の親器も連動して点灯します。



親器—子器—親器



どちらかの親器が
人を検知して点灯すると
すべての器具が連動して点灯します。



点灯動作・検知範囲の確認

- すべての親器のセンサのダイヤル設定を『テスト』にして点灯動作と検知範囲を確認する。
☞ 5～6ページ『センサの設定方法について』、☞ 裏表紙『センサの検知範囲とエリアカット』参照

誤結線した場合

- 正常動作しない場合、配線、結線に間違いがないか確認ください。
- 1秒間に2回の点滅動作（誤結線検知機能）する場合は再使用可能です。
- 上記以外は器具が破損している場合があります。

- 確認後、すべての親器をお客様の希望されるセンサ動作モードに設定し、ご説明ください。

連動時の点灯動作について

- 最初にお出迎え点灯、または人を検知した親器の動作に合わせて、遅れて（約0.5秒）子器・その他の親器が点灯します。消灯も同様です。
- すべての親器のセンサのダイヤルの設定を合わせてください。設定が異なる場合は、最初に動作した親器のダイヤル設定の状態が優先されます。

使いかた

センサの設定方法について

各部のなまえと操作設定について

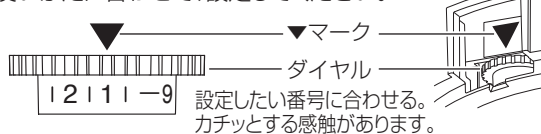
注意 複数台の親器を連動させる場合はすべての親器のダイヤル設定を同一設定にしてください。

表示ラベル

(A)	調整ダイヤル	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(B)	点灯する周囲の明るさ	暗		明						
(C)	お出迎え時間（時間）	切	4	8	朝まで	切	4	8	朝まで	テスト

ダイヤル

・使いかたに合わせて、設定してください。



ダイヤルの一部は切り欠いた形状になっていますが、不良ではありません。

- 出荷時はダイヤル「1」に設定されています。
- 電源立ち上げ時は約40秒点灯後消灯し、周囲が明るい場合は、センサによる待機状態に、周囲が暗い場合は、設定されたお出迎え点灯、ON/OFF点灯に移行します。

ひとセンサ検知部

・人の動きによる温度変化を検知します。
(傷つけたり、汚したりしないでください。)

本体

明るさセンサ検知部

・周囲の明るさを検知します。
(傷つけたり、汚したりしないでください。)

カバー

・取り外し・取り付けかたは

☞ 4ページ

「各部のなまえと取り付けかた」
手順 7 参照

① 調整ダイヤル番号

・点灯する周囲の明るさとお出迎え時間の組み合わせが設定できます。

② 点灯する周囲の明るさ

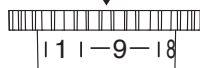
- ・点灯する周囲の明るさを設定できます。
「暗」：周囲が暗い状態（約5 lx）
「明」：周囲が少し明るい状態（約25 lx）が選べます。
- ・「テスト」に設定すると、周囲の明るさに関係なく人を検知し、検知範囲から出て約5秒で消灯します。施工時の検知範囲確認に使用します。

③ お出迎え時間

- ・お出迎え点灯を開始してから終了するまでの時間（お出迎え時間）を約「4時間」約「8時間」「朝まで（明るくなるまで）」に設定できます。
点灯時間については ☞ 6ページ「センサによる点灯動作について お出迎えモード」の項を参照ください。
- ・「切」に設定すると、人を検知し、検知範囲から出て約1分間で消灯します。
点灯動作については ☞ 6ページ「センサによる点灯動作について ON/OFFモード」の項を参照ください

(次ページにつづく)

センサの設定方法について(つづき)

点灯動作モード	お出迎えモード	ON/OFFモード	テストモード
選べる動作	調整ダイヤル 1 2 3 4 5 6 7 8 9 点灯する周囲の明るさ 暗 明 テスト お出迎え時間(時間) 切 4 8 朝まで 切 4 8 朝まで	調整ダイヤル 1 2 3 4 5 6 7 8 9 点灯する周囲の明るさ 暗 明 テスト お出迎え時間(時間) 切 4 8 朝まで 切 4 8 朝まで	調整ダイヤル 1 2 3 4 5 6 7 8 9 点灯する周囲の明るさ 暗 明 テスト お出迎え時間(時間) 切 4 8 朝まで 切 4 8 朝まで
	ダイヤル番号 点灯する周囲の明るさ お出迎え時間 2 暗 (約5 lx) 4時間 3 8時間 4 朝まで 6 明 (約25 lx) 4時間 7 8時間 8 朝まで	ダイヤル番号 点灯する周囲の明るさ お出迎え時間 1 暗 (約5 lx) 切 5 明 (約25 lx) 切	ダイヤル番号 点灯する周囲の明るさ お出迎え時間 9 切 切
ダイヤル設定例	『2』の場合  周囲が暗くなると(約5 lx)お出迎え点灯しお出迎え点灯開始から約4時間で消灯明るくなるまで人を検知すると点灯人が検知範囲から出て約1分で消灯明るいときは点灯しません。	『5』の場合  周囲が少し明るく(約25 lx)で人を検知すると点灯人が検知範囲から出て約1分で消灯明るいときは点灯しません。	『9』の場合  周囲の明るさに関係なく、人を検知すると点灯人が検知範囲から出て約5秒で消灯

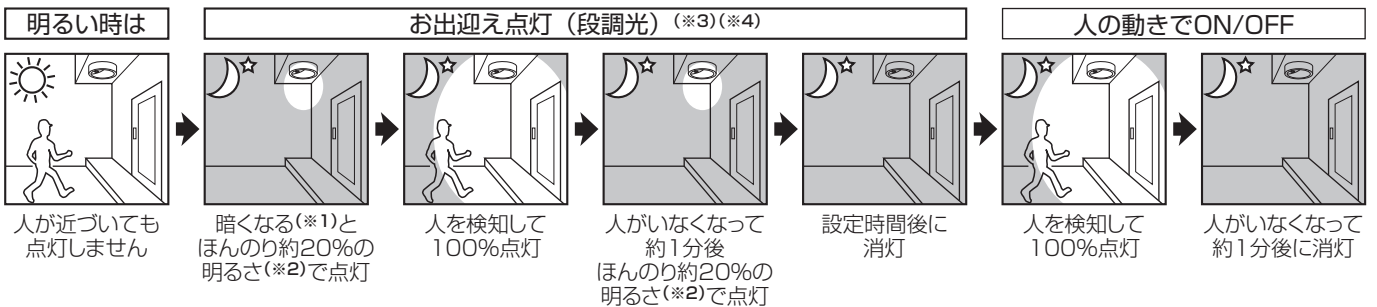
＜ご注意＞ 連動する子器が調光不可タイプ(起動方式LE1・CE1、LED電球)はお出迎え点灯できません。
ON/OFFモードで使用する。お出迎えモードで使用すると、動作不良、騒音の発生、子器が短寿命の原因となります。

センサによる点灯動作について

●壁スイッチは常時ONで使用してください。

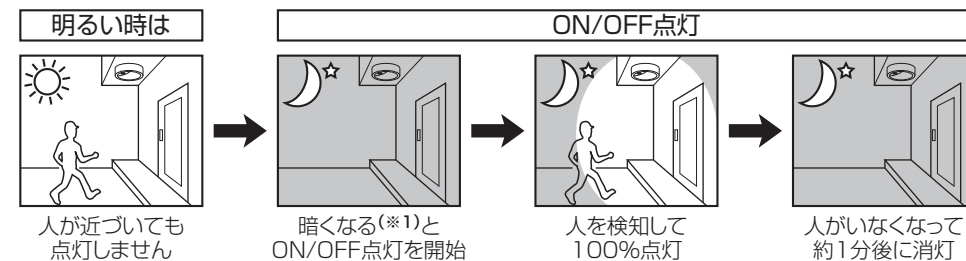
壁スイッチをONにした直後は、周囲の明るさに関係なく照明が点灯し、約40秒後に消灯します。
(明るさセンサは、壁スイッチをONにしてから約40秒後にはたらきはじめます。)

お出迎えモードの動作説明



- ※1) お出迎え点灯開始の周囲の明るさは、『暗』(約5 lx)と『明』(約25 lx)が選べます。
- ※2) 調光の数値は明るさ感度です。
- ※3) お出迎え点灯の終了は、開始してから約『4時間』、約『8時間』、『朝まで』が選べます。
- ※4) お出迎え時間を『朝まで』に設定した場合は、周囲が明るくなるまでお出迎え点灯します。

ON/OFFモードの動作説明



- ※1) 点灯開始の周囲の明るさは、『暗』(約5 lx)と『明』(約25 lx)が選べます。

連続点灯について

人がいないときでも点灯したままにできます

- 周囲が暗い時に壁スイッチ操作で、連続点灯になります。
(☞ 下記「連続点灯への切り替えかた」参照)

メモ

- 設定した明るさより、周囲の明るさが暗い時に切り替えが可能です。
- テストモード時は明るさに関係なく切り替え可能です。
- 連続点灯中は周囲の明るさに関係なく、約15時間点灯します。
その終了後、センサによる点灯に切り替わります。



連続点灯への切り替えかた

壁スイッチがONの状態から素早く(約1秒以内に)OFF→ONにする

センサによる点灯への切り替えかた

もう一度、壁スイッチがONの状態から素早く(約1秒以内に)OFF→ONにする

故障かな?と思ったら

下表に従って点検してください

現象	考えられる原因	処置	参照ページ
検知範囲に入っても点灯しない	壁スイッチ(電源)がOFFになっている	壁スイッチをONにする	—
	設定した明るさより、周囲が明るい	ダイヤルを「明」に設定する	☞ 5~6ページ 「センサの設定方法について」
検知範囲が小さい	エリアカットフードが取り付けられている	エリアカットフードを取り外す	☞ 裏表紙 「センサの検知範囲とエリアカット」
	検知部が汚れていたり蒸気などの水滴がついている	検知部を柔らかい布で傷つかないようにふきとる	—
	暑い日などに周囲温度と人体の温度差が少ない	本センサは人の動きによる温度変化を検知するため左記の場合検知しにくいことがあります	☞ 裏表紙 「センサの検知範囲とエリアカット」
	雨の日に傘などで顔や手が隠れている		
	マフラーで顔を覆ったり、手袋をしていて肌の露出が少ない		
	センサに向かってまっすぐに接近した		
検知範囲に人がいないのに点灯する	検知範囲に人以外の熱源がある 換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機 風などでよくゆれる物(植物)	エリアカットフードを取り付けて検知範囲を狭くする	☞ 裏表紙 「センサの検知範囲とエリアカット」
	強力な電波、誘導雷サージなど電氣的雑音を受けたとき	点灯保持時間後、消灯します(故障ではありません)	—
	壁スイッチをONした直後	壁スイッチON後、約40秒は必ず点灯します	—
	壁スイッチの切り替えにより連続点灯になっている	壁スイッチを素早く(約1秒以内)OFF→ONしてセンサ動作に切り替える	☞ 7ページ 「連続点灯について」
周囲が明るいのに検知範囲に入ると点灯する	ダイヤルが「明」または「テスト」になっている (器具設置環境により異なります)	ダイヤルを「暗」に設定する	☞ 5~6ページ 「センサの設定方法について」
検知範囲に人がいるのに消灯する	人が静止している(動きが小さい)	少し動けば点灯します	☞ 裏表紙 「センサの検知範囲とエリアカット」
	壁スイッチをONしてから1分以内	壁スイッチをONしてから約40秒後にいったん消灯します	—
検知しにくいときがある	室温が高くなり、人と地面の温度差が小さい	温度変化量を検知しますので、温度変化が小さい場合、検知しにくくなります	☞ 裏表紙 「センサの検知範囲とエリアカット」
連続点灯しない	設定した明るさより周囲が明るい	ダイヤルを「明」に設定する	☞ 5~6ページ 「センサの設定方法について」
周囲が暗いのにお出迎えモードに入らない	ダイヤルが「ON/OFF」または「テスト」モードになっている	ダイヤルを「お出迎えモード」に設定する	☞ 5~6ページ 「センサの設定方法について」
	周囲の明るさが設定した明るさより暗いという判定を行っている	待機時は暗いという判定が約4分継続しないとお出迎え点灯に切り替わりません	—
	お出迎え点灯が終了後、周囲の明るさが設定された明るさより明るくなり2時間以上経過していない	お出迎え点灯に切り替えたい場合は、電源をいったん切り約5秒以上たってから電源を入れる	—
周囲が明るいのに点灯したままで消灯しない	屋間に、曇り、雨などで周囲が暗くなった	お出迎えモードでは、屋間でも周囲が薄暗い時(曇りや雨など暗くなった時)は、夜と勘違いして点灯することがあります	—
	センサの検知部を傘、手などで4分以上覆ってしまった	壁スイッチを「OFF」にし、5秒以上たってから、「ON」にしてください	—
	壁スイッチを「OFF」にし、約1秒以内に「ON」にした、または、約1秒以内の瞬時停電があった(連続点灯状態)	壁スイッチを「OFF」にし、5秒以上たってから、「ON」にしてください	—
お出迎え点灯が消灯しない	ダイヤルが適切な位置で止まっていない	ダイヤルを「カチッ」とするまでまわす	☞ 5~6ページ 「センサの設定方法について」

上記の処置を行っても現象が続く場合

①電源をいったん切る

②約5秒以上経ってから再び電源を入れる

- 上記の点検でなお異常がある場合には、ただちに電源を切り、ご購入の販売店、工事中、別紙ご相談窓口にご相談ください。

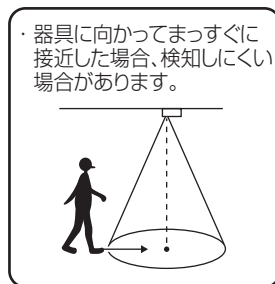
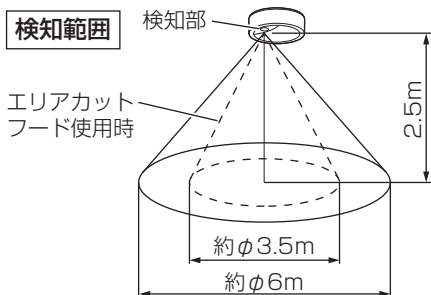
ご使用上に関するお知らせ

故障や異常ではありません

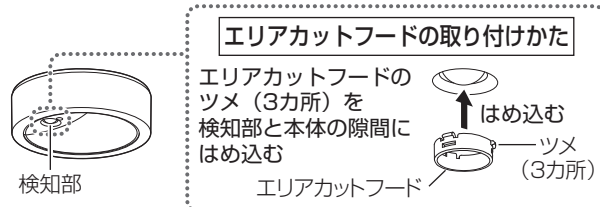
- LEDにはバラツキがあるため、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。
- LEDが点灯しない場合は、電源を切り、販売店、工事店、または別紙お客様ご相談窓口にご相談ください。
- LED光源は、通常のランプのようにお客様自身でのお取り替えはできません。
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用した場合、スイッチがON状態でもセンサ待機（消灯）状態のときにパイロットスイッチの表示が点灯しない場合があります。
- 一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

センサの検知範囲とエリアカット

- センサはおおよそ下図の「検知範囲」で検知します。



- 検知範囲は、付属のエリアカットフードを取り付けることで狭くできます。



<ご注意>

- ・この器具のセンサは、熱源の温度変化を動きとしてとらえます。そのため、動物など人以外の動きも検知して照明が点灯する場合があります。また、静止状態の人などは検知しない場合があります。
- ・検知範囲は気温、服装、移動速度、進入方向、体温、器具の取り付け高さや傾きなどにより大きく変化します。
- ・夏場など、気温が体温に近い状態になると、温度変化が小さいため検知しない場合があります。
- ・センサの性能上、器具に向かってまっすぐ近づいた場合、器具の近くまで近づかないと検知しないことがあります。器具の故障ではありません。
- ・検知範囲の外周部分は場合により検知しにくいことがあります。

お手入れについて

電源を切って、灯具が冷めてから行ってください

- 明るく安全に使用していただくため、定期的（6カ月に1回程度）に清掃してください。
- 汚れがひどい場合は、石けん水に浸した布をよく絞ってふき取り、乾いたやわらかい布で仕上げてください。
- 検知部（『各部のなまえと操作設定について』（5ページ）参照）が汚れますと、センサの感度が鈍くなります。定期的（6カ月に1回程度）にやわらかい布で清掃してください。

確認

シンナー、ベンジンなどの揮発性のものでふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。変色、破損の原因となります。

仕様

 器具のラベルをご参照していただき、品番にチェックをしてください。

品番	カバー色	使用電圧	周 波 数	消費電力	入力電流	光色	使用環境
□ LSEWC2087LE1	ホワイト	AC100V	50/60Hz 共用	8.1W (センサ待機時 約0.6W)	0.13A	電球色	屋外用
□ LSEWC2088LE1	オフブラック						
□ LSEWC2089LE1	プラチナメタリック						
□ LSEWC2084LE1	ホワイト			6.2W (センサ待機時 約0.6W)	0.1A		
□ LSEWC2085LE1	オフブラック						
□ LSEWC2086LE1	プラチナメタリック						

- LED照明器具の光源寿命は、40,000時間です。（照明器具の寿命とは異なります。）
光源の寿命は、点灯しなくなるまでの総点灯時間または、全光束が点灯初期の70%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い時間を推定したものです。